

環境産業委員会



委員長 山本 裕三 副委員長 嶺岡 慎悟

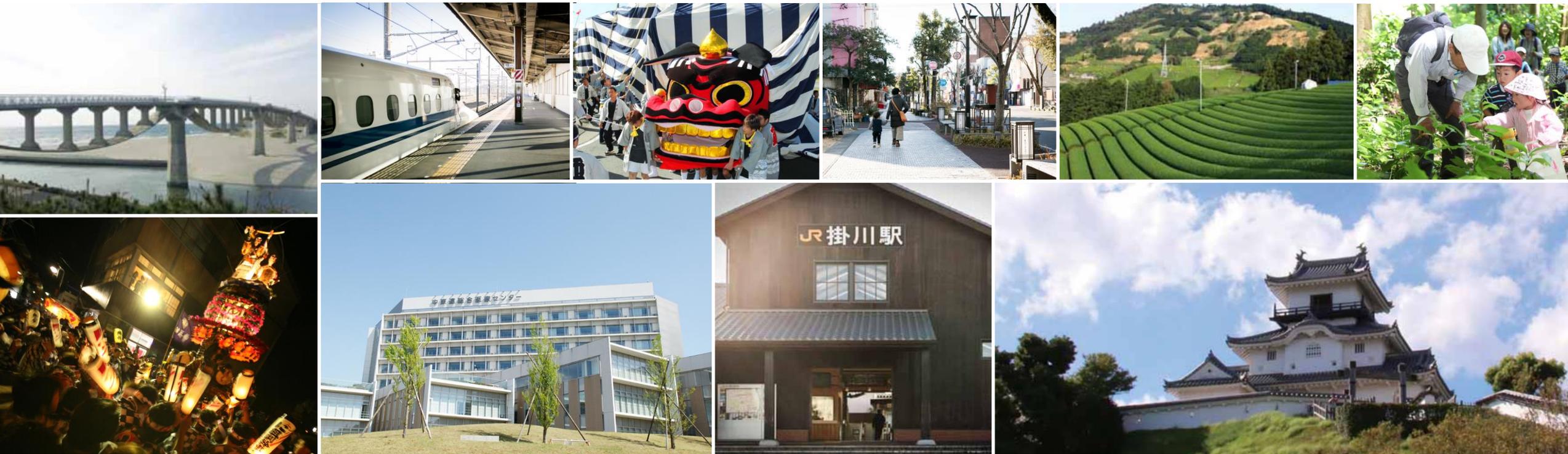
二村 禮一 鈴木 久裕 山本 行男 榛村 航一（写真順）



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市





ポストコロナの新しい生き方 に合わせた移住定住策

～交流人口から関係人口
そして定住人口へ～



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

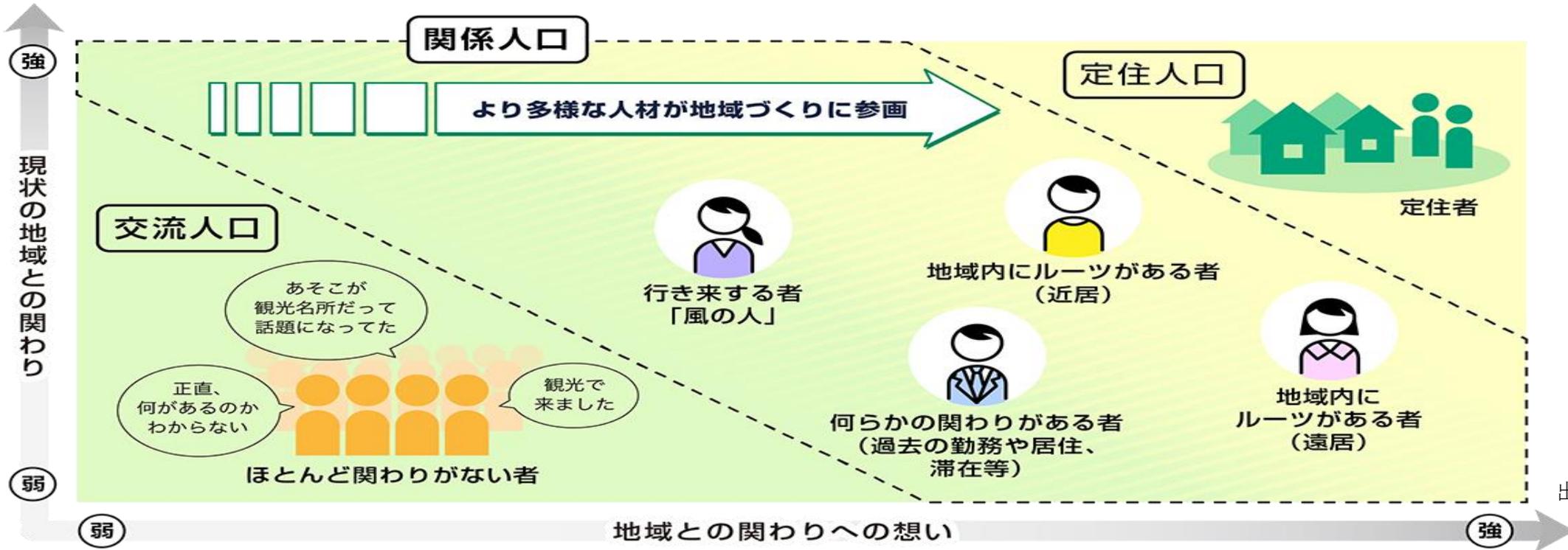
©掛川市



交流人口、関係人口、定住人口の関係

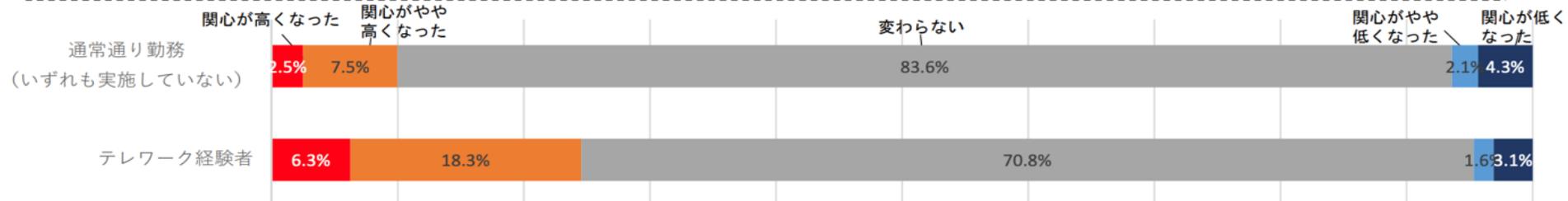


あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。



出典：総務省HP

質問 今回の感染症の影響下において、地方移住への関心に変化はありましたか。



出典：内閣府HP

交流人口から関係人口へ



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市



『かけがわ栗ヶ岳山麓農泊推進協議会』の取組み



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

2018年1月

体験型古民家宿

『旅ノ舎 tabinoya』

をOPEN

事業者：山田幸一さん

掛川市出身、沖縄など全国で旅行代理店事業に従事した後、掛川市の地域支援をしたいということでUターン移住

世界農業遺産である栗ヶ岳の茶畑が広がる美しい景観の中で、産地ならではの呈茶サービス/茶摘み/工場見学等の体験型おもてなしを展開。

活動を持続可能な事業とすることにより、そこに暮らす人々の叙情、文化やスローライフが継承され、それに共感する人たちが世界より吸い寄せられるように自然と集まり、都市と里山が互いに支え合う新しい関係性が築かれた循環型社会を目指した取組みが行われている。

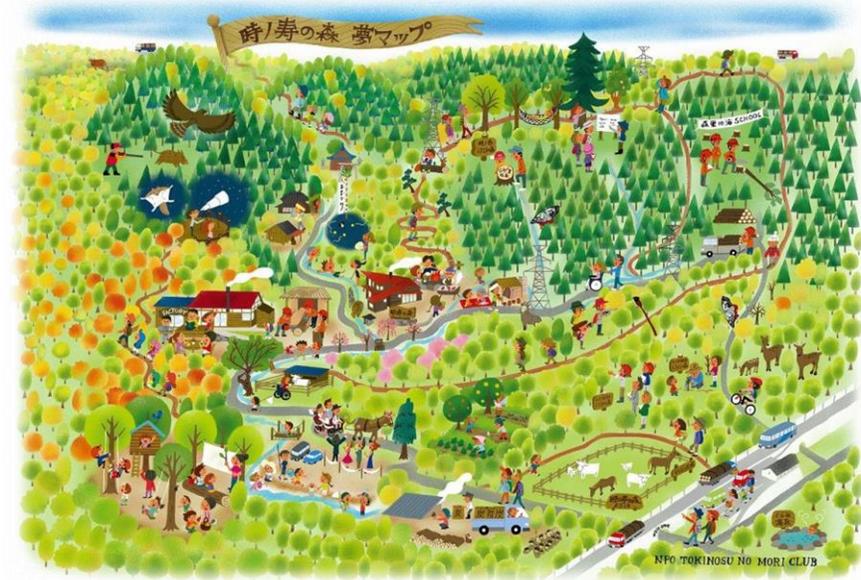


今後の課題



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市



- ① コロナ禍、新しい生活様式における現実的な目標設定及び取り組み方法。地方への移住志向、テレワーク、ワーケーションなど自然回帰志向といった新しい需要を取り込むための仕掛けと環境整備
- ② 関係人口の構築、推進のため行政（観光・シティプロモーション課、文化・スポーツ振興課、など）との連携強化
- ③ 地域間移動の為のアクセス（掛川駅からの移動、地域住民及び観光客の地域間移動）の確保
- ④ 関連事業者（時ノ森の森、かっぱしテラス、かけがわランド・バンクなど）との組織／利益を出せる主要事業の確立
- ⑤ 地区まちづくり協議会との共同事業化の為の連携強化
- ⑥ 世界に誇る伝統の世界農業遺産 茶草場農法による産地茶のブランド力の向上
- ⑦ 地域おこし協力隊制度の有効活用

原泉アートデイズの取組み



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市

クリエイター

羽鳥祐子さん



- ・グラフィックデザイナー
- ・群馬県高崎市出身
- ・市内原泉在住(2016年～)
- ・特に掛川市に縁はナシ
- ・2016年(茶エンナーレ前年)さくら咲く学校で
中瀬千恵子さんと出会い
- ・現代アートと原泉の地域性(人柄)に着目
- ・**原泉アートデイズを立ち上げ(今年3回目)**
- ・国内外の作家と繋がり
→今年には12人の作家が展示予定



アーティスト・イン・レジデンス (滞在型芸術作品制作活動及びその支援)



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

- ・ 原泉の空き家を何棟か借り上げて維持管理
- ・ 原泉に滞在(1か月程度)しながらアートフェスティバルの作品を制作
- ・ 近所の人たちとの交流も
- ・ 創っていくプロセスに重きを置いて、
制作プロセスとともに文化芸術を考えていく

『移住は覚悟の要る行為』 (羽鳥さん談)

→まずは中期滞在中で、地域との“関係人口”をつくる・増やすという考え方で

- ・ 空き家のリノベーション制度の必要性
(実際には適当な物件は少ない→特にトイレが一番の課題)
- ・ 地域おこし協力隊等の制度活用も
- ・ 地域の受け入れ体制(寛容性)もポイント
- ・ 複合施設(さくら咲く学校)では、制作活動を阻害しない「ゾーニング」なども必要か



NPO法人 かけがわランド・バンクの取組み



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。



平成30年2月に一級建築士、宅地建物取引士、税理士、弁護士、司法書士、土地家屋調査士が集まり「空き家対策のプロ集団」として設立。

【設立の目的】

- ①現存する空き家・空き地を利活用することによる掛川地域の活性化を推進
- ②掛川市空家等対策計画に基づく「特定空家ゼロのまち」への寄与
- ③空き家・空き地・狭あい道路を一体的に行う区画再編事業の調整
- ④空き家を媒体とした新たなビジネス展開

【現在の活動 コワーキングスペース】

連雀の商店街で空き店舗を活用し、共同利用のレンタルオフィス事業を行っている。
個人事業主から企業まで幅広く活用されている。

コワーキングスペースから、新事業も立ち上がり掛川市の未来の関係人口の増加、中心市街地の活性化にも大きく寄与をしている。



関係人口から定住人口へ



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市

ゲストハウス『どこにもない家』



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市

家主 長濱裕作さん
住所 掛川市大坂

家主の紹介

掛川市吉岡の出身

県外でサラリーマンとして働いていたが、『半農半X』というライフスタイルを実践すべく、35歳で掛川市にUターン移住。フリーライターの仕事を中心にしながら、ゲストハウス運営やフリーランス支援などを行っている。

『半農半X』・・・自分や家族が食べる分は自給自足を行い、残りの時間を自分のやりたいこと（ミッション、仕事）に費やすこと

【今後の展開】

長濱さんは、今後フリーランスという新しいライフスタイルで暮らしたい方々に対して、生涯学習が根づく掛川市をフリーランスの学びの場としていきたいとおっしゃっていました。



サテライトオフィスの実践例



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市



株式会社REM

本社 東京 他支社 ベトナム ホーチミン

・ソフトウェア設計、開発 ・広告、宣伝の情報媒体の企画及び販売等

- ①掛川出身の社員がいたという理由で4年前にシステム開発部を掛川市に支社として設立。（独立ではない。）
- ②東京の本社とは、テレビ会議、年に数回本社に行く程度で済んでいる。
- ③現在4名体制で行っているが、全て現地採用で、「ITの仕事を静岡含め地方でやりたい。」という方は一定数いる。

【インタビューにて】

- ①企業として新幹線駅から数分の立地のオフィスを都内に比べるとかなり安い値段で借りられることは大きい。災害や様々なリスク分散としても支社を設立したことはよかった。
- ②出勤のストレスがなく、時間を有効活用できる。生活面もゆとりのある生活ができ移転してとてもよかった。

① 大手企業の地方移転



パソナは2024年5月末までに、段階的に主な東京の本社機能を東京から淡路島に移し、社員約1200人すべてが移住する方針を示している。新型コロナウイルスを機にリモートワークが普及し本社機能の都心への一極集中の流れも変化している。

② 移住者が絶えない高知県梼原（ゆすはら）町



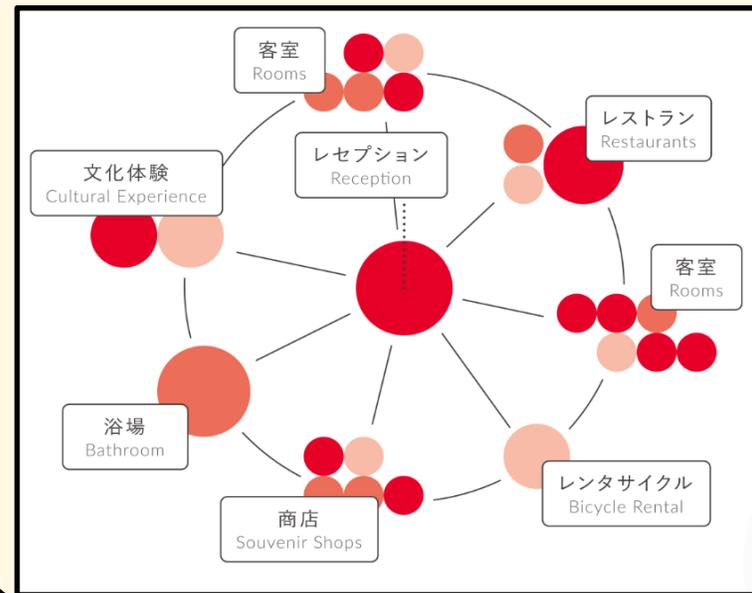
梼原町は5年間で200人の移住者をむかえている。成功のポイントは移住者専用の体験用モデルハウスである。モデルハウスは住民から行政が借り受け、月の家賃は15000円で移住者に貸し出している。10年後に家主に家を返還する。家主もリフォームできれいになった家が返ってくるので貸し出し者も増え続けている。

③ リモートワーク最前線



約700名のほぼ全社員がリモートワークを行っている株式会社キャストの取締役石倉氏によるリモート講演。月2000件近い仕事応募に対して、提供できる仕事件数は15件程度とリモートワークをしたい人はたくさんいるが、まだまだ仕事足りていない状況。「リモートワークは女性がやる仕事」という意識が変わらなければ、今後広がっていかないとのこと。

④ 空き家の新しい活用法「まちやど」



空き家を改装し宿泊施設に、食事は近隣の飲食店で、浴場は地元の温泉利用をし、これまでホテル内で行っていたことを町全体をホテルとみだてて行う事業。総合レセプションを独立して設置する。



まとめ

～交流人口から関係人口
そして定住人口へ～



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市

環境産業委員会の提言にむけた方向性（案）



あなたの夢、
描いたつづきは掛川で。

©掛川市

【交流人口から関係人口、そして定住人口へ】

- ・ 関係人口増加にむけた施策体系の構築
- ・ 今回の調査で移住定住の促進には、市役所の多くの課が関わることが判明。関係人口増加のために掛川市として全庁体制での取組みの必要性。
- ・ 地域おこし協力隊や企業版ふるさと納税（ヒト版）制度の活用による人材確保。
- ・ 受け入れる側である地域の機運醸成、体制づくり。
- ・ 新しい住民や生き方について市民への積極的な情報提供。
- ・ 中長期滞在施設として空き家のリノベーションによる活用促進。
- ・ コワーキングスペースやサテライトオフィスの推進。
- ・ 進学等で市外県外にでた若者が帰ってくるができる事業所の誘致。

etc…

今回のWEB deかけがわ 議会報告会にて市民の皆様のご意見をお聞かせいただき、年度末までに正式な議会としての政策提言にまとめていきます。